

22. 10. 1

佐倉市

# 教育センターだより

Vol.22

平成22年10月1日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043 (486) 2400 <http://www.city.sakura.lg.jp/kyoikucenter/index.htm>

## ちょっとした工夫の積み重ね

所長 佐久間 保男

下の□は、ある出来事のキーワードとなる事柄を並べました。①から⑥まで順番に見ていった時に、どのような出来事のことか、想像することができるでしょうか？

- |              |           |
|--------------|-----------|
| ① 平成15年5月 9日 | ④ 質量510kg |
| ② 平成22年6月13日 | ⑤ イオン     |
| ③ 内之浦        | ⑥ 一度は失敗   |

①の日にちから、この日を聞いて全くわからないという人が大部分でしょう。興味のある方は②の日にちを聞いて、「あのことか。」と思うかもしれません。そして、③・④・⑤・

⑥と新たな情報が入ってくると、確信したり、ちょっと違うかなと考えたりします。私がもし、この□の情報を初めて見たとしたら、全くわからないので、これを読まれている方の相当数の方と同じように興味もないし、わからないことばかりで、考えるのも疲れると、感じてしまうことでしょう。

では、ここで下記のようなキーワードとなる文章だったらどうでしょうか。

- |                              |                        |
|------------------------------|------------------------|
| ① 平成15年5月 9日に <u>打ち上げ</u>    | ④ 質量510kgの <u>探査機</u>  |
| ② 平成22年6月13日に <u>カプセルが帰還</u> | ⑤ イオン <u>エンジン</u>      |
| ③ 内之浦宇宙空間観測所から <u>打ち上げ</u>   | ⑥ 一度は <u>イトカワに着陸失敗</u> |



①の打ち上げが加わったこと、②のカプセルが帰還で、「はやぶさ」のことかと、気づかれた方も多いかと思います。この夏には、大きなニュースとして流れました。記憶に新しいところです。

人間は、貴重な情報をいくら与えられても、受ける側にとって必要性がなかったり、そもそも興味関心が薄かったりすることであれば、そう簡単には飛びつかないものではないかと考えます。このことを学校教育の中で考えた場合どうでしょうか。児童生徒が必要感や興味を持たなければ、取り組まなくて良いのかということになります。しかし、これは違います。児童生徒が現時点で価値を感じることができないことであっても、つけさせたい力をはっきり定めて意図的・計画的に行われるのが教育活動だからです。だからこそ教師は、どうすれば児童生徒に必要感や興味関心を持たせ、取り組んでいくことができるか考え、常に実践していく必要があります。資料の提示一つ取っても工夫があるはずで、ちょっとした工夫で良いのです。全て提示するのか、半分にするか、最小限にするか等。内容は、写真にするか、絵にするか、文章なのか、図形なのか等。また、言葉により、揺さぶりをかけていくのか等。様々な技術・方法を教師一人ひとりが身につけているはずです。それを駆使し、児童生徒が必要感や興味関心を持ち、授業に臨める環境を創造していくことが大切です。

話は変わりますが、「はやぶさ」にはエンジンが4基搭載され、その一つ一つのエンジンはイオン発生器と中和器が組みになったものだったそうです。難しいことはわかりませんが、2基のエンジンは全く使えない状態になり、残りの2基も一方はイオン発生器が、もう一方は中和器が故障してしまいました。そこで、残り2基の使えるものを組み合わせて、1基のエンジンとして確保し、「奇跡の生還」につながったということです。しかし、これは偶然が重なった故ではなく、言葉が適切かどうかわかりませんが、研究者・技術者が作り上げた奇跡だと思います。研究に携わった方々が、もしもの事態に備え、何通りものエンジンの組み合わせのプログラムを組み、準備されていたのです。蓄積されたそれまでの技術を生かし、できる限りの方法を事前に考え、最大限の努力をし、「もしもの時には〇〇の方法を使おう。」と、打ち上げに臨む姿勢—。学校の中で、様々な計画を立てる時の参考になることだと思います。

# 「平成22年度佐倉市教育相談基礎講座」から

## 1. はじめに

平成19年度より始まった「佐倉市教育相談基礎講座」も本年度で4回目の開講となりました。「教育相談の理論と技法を修得し、児童生徒のもつさまざまな問題解決に向けての指導力を育成すること」をねらいとし、先生方の教育相談の技量を高める場として、活用していただいています。

今年度の、3日間にわたる和田ふるさと館における研修の様子を紹介します。

## 2. 研修の概要



研修風景の一コマです。暑  
い中、先生方の真剣に受講さ  
れている様子がうかがえます。  
理論をふまえたうえで実践に  
つなげられると、より一層、  
指導に確かな自信が加わります。

教育相談は「いつでも、  
どこでも、だれでも」が  
基本原則です。

### 【講師の先生方】

研修は『教育相談の意義』『発達段階から見た児童・生徒理解』をはじめとした講義と『ミニカウンセリングの理論と実践』などの演習により構成されています。受講された先生方の中で、「教育相談」の視点を通して「児童生徒理解」への意識が、整理されていったようです。

なお、本講座を受講した先生方には修了書をお渡ししています。また千葉県教育委員会が実施する『教育相談上級講座』の受講資格を得ることができます。

|     | 主 題・内 容                   | 講 師                        |
|-----|---------------------------|----------------------------|
| 第1回 | 教育相談の意義(講話)               | 印西市立印旛中学校<br>校 長 滝本 信行 先生  |
|     | ミニカウンセリングの理論と実践(演習)       | 佐倉市立南志津小学校<br>校 長 杉本 勉 先生  |
| 第2回 | 発達段階から見た児童・生徒理解(講話)       | 佐倉市教育センター<br>滝口 直美 学校教育相談員 |
|     | 不登校児童生徒の理論と対応(講義)         | 佐倉市教育委員会 指導課<br>小栗 雅彦 指導主事 |
|     | 構成的グループエンカウンターの理論と実践(演習)  | 佐倉市立弥富小学校<br>校 長 山本 昌弘 先生  |
| 第3回 | 特別な教育的ニーズを持つ子どもの理解と支援(講話) | 佐倉市教育委員会 指導課<br>山本 健太 指導主事 |
|     | 問題行動の理解と対応(講話)            | 佐倉市教育委員会 指導課<br>相蘇 重晴 指導主事 |
|     | インシデントプロセスによる事例研究(基礎演習)   | 佐倉市立井野中学校<br>教 諭 根本 栄治 先生  |

### 3. 特集「インシデントプロセスによる事例研修(基礎演習)」から

数ある講座の中から今回は「インシデントプロセスによる事例研修」（講師：井野中学校根本栄治先生）を特集します。先生方の感想からも「校内の事例研修で取り入れられるよう生徒指導部会に提案したい」という声が寄せられました。

〈検討会の流れ〉

| 項目       | 時間   | 活動内容                                           | ポイント                             |
|----------|------|------------------------------------------------|----------------------------------|
| 進め方の説明   | 5 分  | 現在の状況で有効な支援を見つける。                              | 具体的な支援策を見つける。                    |
| 事例提案者から  | 5 分  | 主訴の確認。                                         | 簡潔に事実を述べる。                       |
| 情報の収集    | 10 分 | 1問1答の形で情報を収集する。参加者全員が質問する。                     | 簡潔な質疑応答。同じ質問はしない。批判するような発言はしない。  |
| 個人での検討   | 5 分  | 得られた情報から、効果のある支援・関わり方を考える。                     | ワークシートの活用もあり。                    |
| グループでの検討 | 20 分 | 個人での意見をグループ内で発表する。グループとしての具体的な支援策を大きめの用紙にまとめる。 | 全員が均一に発言できるようにする。現在の支援の問題点は上げない。 |
| 全体検討     | 10 分 | グループの検討結果をまとめたものを簡潔に発表する。                      | 支援策は具体的で実行可能なものとする。              |
| まとめ      | 5 分  | 事例提供者が感想を述べる。                                  |                                  |

#### 【具体的な進め方のルール】

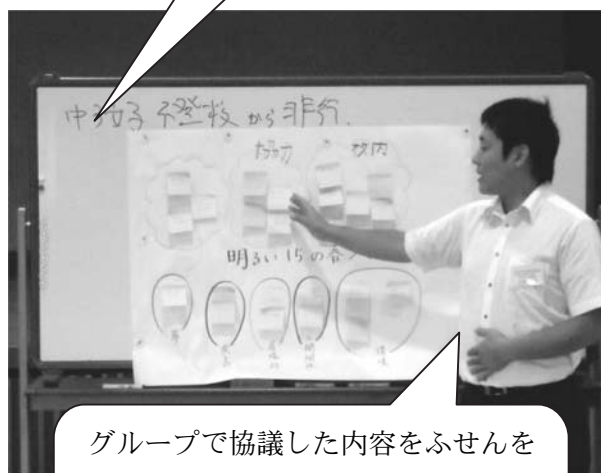
〈事例提供者〉

- ① 主訴を一つに絞る。
- ② 聞かれた質問の事実をありのままに述べる。
- ③ 憶測や感想を交えない。

〈参加者〉

- ① 事実に関する具体的な質問をする。
- ② 事例提供者の努力不足や指導方法の非難をしてはいけない。
- ③ 憶測や感想を交えない。

〈グループ討議のひとコマから〉



グループで協議した内容をふせんを用いてまとめています。考えたことを整理するのに効果的です。

### 4. まとめ

いじめや不登校、問題傾向、発達に関する問題など子どもたちが抱える問題は深刻、かつ多岐にわたっています。たくさんの先生方が教育相談の手法を修得され、実践に生かすことで、子どもたちへのさらなる理解を深めていただけたらと思います。

# 発達相談の現場から



平成20年度より始めました発達に困難さを抱えている幼児（5．6歳児）小中学生のための「発達相談」も3年目を迎えました。昨年度の相談件数は656件でした。今年度、8月までの相談件数の累計がすでに300件を突破しており、混み合う状況が続いています。相談の現場でお忙しい中、日々ご活躍いただいている相談員の先生方にうかがいました。

## ～発達相談（言語）に取り組んで～

言葉の気づきのきっかけはやはり発音です。保護者が気づくか、子どもが気づくか、担任の先生が気づくか……。一番気がつきやすいのは担任の先生なのかもしれません。音声の発達段階上、小学校1年生の9月～10月頃までにほぼ完成するはずですが、その時期を過ぎても例えば「先生」が「てんてい」になる、また友達とのコミュニケーションで通じていない・などの場合は一度ご相談いただいた方がいいと思います。早く改善するためには、舌の使い方が固まらないうちにトレーニングを始めた方がいいので……。

### 視点のポイント

- ◇口を常に開けていないか（舌が歯の間から出ている）
- ◇鼻呼吸ができずに口呼吸をしていないか（耳鼻科との関連も……）
- ◇「あいおうえお」を教えているときに口形だけでなく、音になっているかどうか

言葉を見ることで、発達の課題がクローズアップされることも多いです。（舌の動かし方をマスターするのに時間がかかるため）自然治癒もないわけではありませんが、それまでの間に二次的な問題を生じる可能性があります。子どもが成長してから自分の言葉に気づき、自信を失うことがないようにしたいものです。（談：学校教育相談員 濱野輝子）

①保護者の承認を得た担任からまたは保護者から直接「ことばの教室」への通級希望があった

②校内就学指導委員会の結果、通級が必要と判断。

③管理職より教育委員会指導課へ連絡

教育委員会指導課  
特別支援教育担当

学 校

家 庭

④検査依頼

⑤報告

⑥佐倉小・南志津小・センターの  
状況を確認し、通級開始日を連絡

教育センターまたは通級指導学級

「ことばの教室」への通級手続きの流れについて



## ～発達相談（発達）に取り組んで～

今年度は原則教育センターにて、1日最大4コマの相談をお受けしています。また、お子様方に検査を行った場合、先生方にはお忙しい中ですが、センターにお越しただいて結果のご説明をしております。今まで（学校にうかがってお伝えしていた頃）ですと、結果をお伝えするのが精一杯で、その後の方向性までお話することができていませんでした。今年は次の手だてまで踏み込んだお話ができることが非常にうれしいです。また先生方がそのお子さんへの理解を深めることで、先生方自身、その後の見通しがもちやすくなり「ならば学級でこれをやってみたいと思います。」といった主体性のある言葉につながるなど、私自身確かな手応えも感じるようになりました。



検査は「この子はやっぱり発達障害だったんだ」とラベリングすることが目的ではありません。発達に課題を抱えるお子さんの特性を理解することで、先生方の「手だて」を工夫することができます。その理解を土台に、学級経営や教科経営の向上を意識することで、お子さんの反応そのものが変わる可能性があります。学習に困難があるならば、それはどのような部分なのか。落ちている部分をどう支えていくのかにつなげていきたいものです。

**佐倉市ライフサポートファイルを  
ご存じですか…？**

就学相談、発達相談の内容や検査結果、移行支援シートや個別の指導計画、教育支援計画などがとじてあるファイルのことです。発行は教育委員会、健康管理センター、さくらんぼ園で行い、管理は保護者の方がすることになっています。発行のねらいは横の機関の連携や進路に応じた環境の変化への移行が円滑にできるように情報を集約することです。センターで検査を実施した時にもサポートファイルを発行し、保護者にお渡ししていますので、学校と家庭の連携に活用していただけると幸いです。

（談：学校教育相談員 滝口直美）

### 簡単チェック！「落ち着き」のためにできること

#### ◎教室環境の部

- ☐ 持ち物の置き場所、提出物を出す場所  
場所は同じ所に定めていますか？
- ☐ お子さんが安心して暮らせるように  
視覚的情報を与えていますか？  
（まどわないことが安心につながる）
- ☐ 色遣いはどうですか？（刺激過多）
- ☐ 机いすのサイズは合っていますか？

#### ◎言語環境の部

- ☐ ゆるぎない言葉で話していますか？  
（言い直しは混乱につながります）
- ☐ 一文一事で、短く話せていますか？  
（複数の事柄の同時処理は難しいです）

### 【こんなことでお困りの時・・・】

「落ち着きがなくて座ってられない」「漢字が覚えられない」「計算が苦手」「板書をノートに書き写せない」「授業についていけない・・・」

この子の抱える課題の背景には何があるの  
だろう？どんな支援をしたらいいのだろう？

まずは管理職の先生方や特別支援コーディネーターに相談してみましょう

発達相談（佐倉市教育センター内）  
**486-2400**

# 教 育 セ ン タ ー 資 料 室 紹 介

## 「研究実践を有効活用するために・・・」

佐倉市教育センターでは、これまでの市内各学校の研究紀要、学習指導案を収集しております。現在まで、各学校のご協力をいただいたおかげで、たくさんの研究実践を収集することができました。当センターでは、その収集した資料を教科別・領域別に分類し、先生方が今後の研究に役立てていただけるようにデータベース化を行っている最中です。また、過去の研究図書につきましても、各先生方のご厚意により寄贈していただいたものも整理分類し、保管しております。各学校の研究実践に少しでも有効活用していただければと思います。活用を希望される方は、当センターへ事前にご連絡の上、お越しください。たくさんの先生方の活用をお待ちしています。

## 「佐倉市のこれまでについて・・・」

佐倉市教育センターでは、研究実践の資料の他にも、佐倉市の歴史や文化財に関する蔵書等の資料が多数保管されています。貴重な資料や蔵書の中には、「佐倉学」の学習に役立つものもありますので、多くの先生方に閲覧していただければと思っています。

佐倉市の歴史や文化財に関する資料の一部を紹介いたします。



【資料室内の様子】

### 【ふるさと歴史読本】

井野長割遺跡などをはじめとする原始・古代の佐倉から、近世における佐倉藩の藩政改革、佐倉連隊と近代の佐倉の歴史や佐倉ゆかりの人物などについて学ぶことができます。佐倉の自然についてもわかりやすく書かれています。

編集 佐倉市役所総務部総務課市史編さん室

### 【古今佐倉真佐子】

佐倉藩士の渡辺善右衛門によって1700年代の半ばに記されました。当時の佐倉城や佐倉のまち、人々の生活、昔話などが克明に描かれています。江戸時代の佐倉の様子についてくわしく知ることができます。

編集 佐倉市史編さん委員会

## 佐倉に親しむ・・・

### 【写真に見る佐倉】

幕末から現代に至るまでの佐倉のまちの様子や佐倉にゆかりのある人々について、写真で解説した冊子です。時代やテーマごとに解説されており、佐倉をわかりやすく理解することができます。

編集 佐倉市総務部行政管理課

### 【佐倉市細見】

佐倉市内に所在する各種の文化財を紹介した冊子です。地区ごとに佐倉の歴史や自然、文化に関する文化財が紹介されています。また、佐倉の歴史学習のインフォメーションとしても調べ学習に役立ちます。

発行 佐倉市教育委員会文化課

## 編集後記

観測史上最高と言われた夏の猛暑の中、先生方にはそれぞれの学校や研修会で研鑽を積まれたことと思います。今回は「発達相談」を特集し、相談員の先生方の声をお届けしました。視点を増やし、児童生徒理解を深めることで、よりよい支援につながることを期待しております。